

新福社会館の早期建設を進めよ

西岡市長の
6施設複合化撤回により

ゼロベース 福社会館建設計画 になった



前小金井市議会議員

2016年12月発行 五十嵐京子を支援する会

小金井で元気に！小金井を元気に！

五十嵐京子

通信
第43号



▲閉館された福社会館

耐震上の問題から旧福社会館が閉館となり既に8か月が過ぎました。早期建設を求める声は市民の間からも議会からも出ていますが、9月議会最終日に西岡市長は6施設複合化(蛇の目跡地に庁舎・図書館・福社会館建設)をゼロベースで見直すことを発言して以来、新たな動きは出てきていません。

中断された本町暫定庁舎用地活用の 新福社会館建設計画

平成27年12月に稲葉前市長が退任するときの市の方針は、本町暫定庁舎と第二庁舎北駐車場のある市有地に新福社会館を単独で建て替えることであり、市民参加の建設

り公約である6施設複合化の検証に入ったため、検討委員会が中断され、この計画にストップがかかり、さらに西岡市長の6施設複合化のゼロベースでの見直し発言により、今は先の計画がまったく見えなくなっているのが現状です。

超高齢社会をどう乗り越えるか、 日本最大の課題

今、日本は世界でもまれにみる速さで高齢化が進み、超高齢社会(高齢化率21%以上の社会)に突入しています。生産人口(15〜64歳)の減少は社会の活性化にブレーキをかけることになり、若年層の将来への不安は大きくなっています。女性の社会進出が期待され、それは保育園の待機児増という形で自治体へも問題を投げかけていますし、社会問題にもなっています。

一方、高齢化は元気な高齢者の増加という結果ももたらしました。65歳で定年を迎えたサラリーマンでまだまだ元気な方が多く見受けられ、就職求人窓口にはこうした高齢者が多く来ている様子が報道されています。

検討委員会も設置され、平成31年度完成に向けて動き出したところでした。西岡市長誕生によ

地域のあり様が重要な鍵に

小金井市は都心への通勤者の多い住宅都市です。働いている間は地域に縁がなかった元気な高齢者が多く暮らしています。退職後の20年をこの地域を中心に元気で過ごしていかななくてはならず、それには様々な人と人がつながる機会を作っていく必要があります。地域でのボランティア、仕事、生涯学習、趣味などの活動により顔が見える地域づくりと生きがいを作ることが出来ます。それは健康寿命の延伸につながるだけでなく、この地域の防犯防災対策としても有効な働きをすることになるのです。そのきっかけづくりとしても拠点の存在は大きな意味があると考えています。稲葉前市長の時の新福社会館計画には、課題となっているシルバー人材センターの事務局も入ることになっていました。



障害福祉推進の拠点としても福社会館は重要な役割を果たします。平成28年度から施行された障害者差別解消法は障害を理由として差別してはならないことを定めた法律ですが、これは健常者にこそ求められている法律であり、障害というものの理解が欠かせません。だからこそ障害者も健常者も一緒に活動できる拠点としての福社会館の存在が期待されているのです。